

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立大野小学校

1 はじめに

守谷市学校教育グランドデザインの5つの柱の中に「ニュージェネレーションプラン」がある。このプランでは英語教育の推進が益々求められ、学校においてもALTとともに小学校の英語活動を通して、英語に親しみ、英語を使うことのできる児童の育成を図ることが必要である。

本校では、ALTの活躍する場が多く、授業以外において児童も気軽に英語で話すことができています。そのような中で授業に参加し、理解し、習得し、活用する「使える英語」を目指すための取り組みを行っている。

2 具体的な実践内容

(1) 特例校としての取り組み

<低学年>

- ・歌や遊びなどにより、楽しみながら外国語を聞いたり話したりした。
- ・クラスルームイングリッシュ（単語）

<中学年>

- ・ハロウィンなど外国の文化や食べ物の英語に興味をもたせるようにお面を作ったり、カードゲームを行った。
- ・クラスルームイングリッシュ（文）

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

<高学年>

- ・世界の文化や習慣を写真やビデオで学びグループごとに感想などを発表した。
- ・フォニックスの聴き取り練習と単語をマッチさせながらアルファベットを書く練習を行った。
- ・クラスルームイングリッシュ（文章）



授業風景



ハロウィンのお面作り

3 学校独自のアプローチ

- (1) ALT作成の展示物や掲示物により、ALTと児童との自然な会話が生まれた。
- (2) 教師の指示は英語が基本であるが、必要に応じて日本語で補足した。
- (3) 本年度3学期から全学年が同じ挨拶の流れで行った。
- (4) 米国の小学校3年生と大野小学校6年生の間で手紙の交流を図り、外国の文化や英文に親しんでいる。



ALT作成の雪ダルマ

4 成果と課題

- ・今年度の児童と保護者のアンケート結果から「英語が楽しいからもっと勉強したい」「英語の時間を増やしてほしい」など英語活動に対して約9割の回答が肯定的であった。
- ・児童は英語の時間だけでなく、学校生活全般において英語で気軽に話すようになっている。また、保護者の中にはALTを見つけると英語で話しかけるなど、ALTが地域に馴染んでいることは好ましい。
- ・前年度の課題において、「英語に限らず、地域のゲストティーチャーをお招きして、世界の言語や文化に触れさせる機会をもつ」ことが本年度ではできなかったため、次年度に引き継ぎ指導計画を見直していきたい。
- ・挨拶の流れは全学年を通して統一して行っているため、次年度も引き続き行い、挨拶の定着を図る。